

美術科 2年

心のイメージを形に ～印象や感情を表す～

担当 矢治朋恵

【活動の目標】

- 知技：形や色彩、その組み合わせに着目しイメージをとらえ、絵具などの材料を生かして表す。
 思判表：感情やイメージをもとに、形や色彩構成などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりする。
 主：感情やイメージなどを形や色彩で表すことに関心を持ち、意欲的に取り組む。

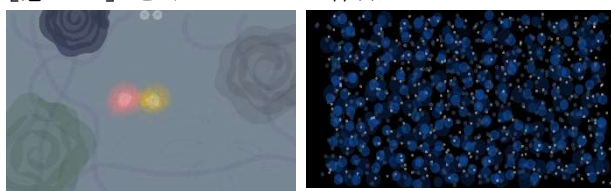
【 問 い 】

- ・抽象絵画の作品と題名を組み合わせる鑑賞活動を通して、形のないものを色彩や形、表現方法の工夫で制作することに意欲を持たせる。（「問い」の工夫Ⅰ）
- ・Chromebook の描画ツールを使って直感的に色彩や形で表現することと、絵の具などの画材を使って表現することどちらも表現することを通して、表現方法の違いや特徴つかみ作品につなげる。（「問い」の工夫Ⅱ）

今回 ICT を活用した場面	従来の活動
B3 思考を深める学習 鑑賞教材の、抽象絵画作品と、その題名をスライドに貼り付けて、組み合わせられるようにした。そうすることで、個人でじっくり考える時間を確保することができる。	カードをカラーコピーしたものと、題名のカードを作成して配る。一人に一つは配れないので、個人で考える時間より、グループで考える時間のほうが多くなる。
B4 表現・制作 描画ツールで、指を使って直感的に作品を創る。使い慣れないソフトなので、思ったままの素直な表現が見られる。	絵の具などの画材を使って、数枚描く。それぞれの技量の違いや、失敗したくないという気持ちから、なかなか作品が進まなかった。
C1 発表・話し合い 出来上がった作品を相互鑑賞をする際、データをそれぞれの手元で見ることができる。	出来上がった作品を見せ合いながら相互鑑賞を行う。

【資料】 作品例

[悲しい] をイメージした作品



[楽しい] をイメージした作品



【ICT 機器を活用する良さ】

- 描画ツールで作品を創ることで、簡単にやり直したり、配色を変えて比較したりすることができるので、様々な表現を試すことができる。
- 描画ツールを使うと、塗りつぶしやテキストなどが自由に扱えるので、技能的な差が出にくく、苦手を感じている生徒にとっては負担が少ない。
- 作品制作後の相互鑑賞の記録を Chromebook 上ですることによって、お互いがどんなふうに関心を持ったのかを共有しやすい。

【改善すべき点と原因および改善案】

- ・描画ツールの機能を試すことが目的になってしまい、構想が深まりにくい

⇒原因

初めて使う機能なので、何ができるのか、どんなふうになるのかを知らずに、やりながら確認していった

⇒改善案など

作品を作る前に扱い方を試す時間を確保し、多少でも経験を積むことで、それを活かした作品作りにつなげることができる。